

再 評 価 調 査 書

整理番号	7
担当部局	土木部道路建設課

1 事業概要

(1)事業名	地方道路整備事業	(2)名称	主要地方道 結城坂東線
(3)事業主体	茨城県	(4)箇所名	坂東市弓田地内～坂東市岩井地内
(5)採択年度	平成29年度	(6)完成予定年度	令和6年度
(7)事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 主要地方道結城坂東線は結城市と坂東市を結ぶ主要な幹線道路であるとともに、圏央道坂東インターチェンジアkses道路としても重要な路線である。 坂東市街地において交通転換による円滑化や圏央道 IC へのアクセス向上による地域の活性化を目的とし、坂東市弓田地内～岩井地内までの延長約1.9kmを整備するものである。 		
(8)事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 事業延長 L=1,880m 計画幅員 W=16m (2車線) 用地買収、道路改良工事、舗装工事、橋梁工事 		

2 再評価の理由

(1)再評価の理由	再評価	(2)当初完成予定	令和6年度
(3)未着工・事業が長期間要している理由	-		
(4)前回指摘事項に対する対応状況 (再々評価の場合)	委員会の意見	対応状況	
	-	-	

3 事業計画の変更

(1)完成年度の変更	-
	【理由】 -
(2)事業内容の変更	【理由】 -
(3)事業費の変更	-
	【理由】 -

4 進捗状況と今後の見通し

(1)事業進捗状況	全体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量 (m)	1,880	220	420	22.3%
事業費	工事費	589	1,618	83.1%
	用地買収補償費	1	654	100.0%
	計(百万円)	590	2,272	87.4%
(2)関連事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 圏央道坂東インターチェンジが平成29年2月26日に開通 坂東 IC 関連工区として、740mが供用 (坂東 IC と同日供用) 圏央道4車線化 令和7～8年度予定 			
(3)今後の見通し	工事	用地等		
	橋梁の本体工事が完了し、残る工事についても計画的な発注をしていくことで、早期の全線供用を図る。	令和3年度に全ての用地取得が完了。		

5 評価内容

(1)事業の必要性	<p>当路線は、坂東市内の主要な幹線道路であり、坂東市内から県西地域及び圏央地域を結ぶネットワークを構築する路線である。</p> <p>本バイパスの整備により、坂東 IC へのアクセスが向上することで、県西地域の交流促進に資するとともに、坂東市内の交通円滑化を図る。</p>					
	社会情勢等の変化に関する指標 1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標 2	計画時の状況	現時点での状況
	結城坂東線 24時間交通量 (坂東市岩井)	12,679 台/日 (H17セサス)	15,041 台/日 (H27セサス)	-	-	-
(2)事業の有効性	<p>本事業の実施により、下表のとおり、結城坂東線現道区間の交通量が約3割減少することから、交通利便性の向上に有効である。</p>					
	効果予測に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標 2	事業なし	事業あり
	坂東市弓田～坂東市岩井(2.4km)の通過時間	4.6分	3.3分			
	効果算定要因に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標 2	事業なし	事業あり
	計画道路将来交通量 (R22)	-	9,600 台/日	現道将来交通量 (R22)	15,400 台/日	10,900 台/日
(3)事業の効率性	<p>ア) 主な効果 (B)</p> <p>① 当路線の整備により、坂東市弓田～岩井までの約2.4km区間及びその周辺道路において、走行時間の短縮により、5,180百万円の縮減効果が見込まれる。</p> <p>② ①と同一区間において、走行経費の削減により1,230百万円の縮減効果、及び交通事故の減少効果が30百万円見込まれる。(合計6,440百万円)</p> <p>③ 市内の交通渋滞の解消が期待されるとともに、圏央道坂東 IC へのアクセス向上が図られる。</p> <p>イ) 主な費用 (C)</p> <p>①事業費 2,860百万円 ②維持管理費 250百万円 計 3,110百万円</p> <p>貨幣化が可能なア、イについて、事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C=2.1</p>					
(4)地元の意向	<p>県西地域総合振興協議会 (会長：古河市長、関係市町：結城市、下妻市、常総市、筑西市、古河市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町) および坂東市から早期整備の強い要望を受けている。</p>					
(5)コスト縮減や代替案立案の可能性	<p>土工における土量の過不足について、近傍で実施している他事業と工事間流用を調整することにより、コスト縮減を図る。</p>					

6 対応方針

圏央道坂東 IC へのアクセス向上や企業立地の促進、都市地域間のネットワーク強化、広域的な幹線道路の整備などのため、早期完成を図る。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、現計画に沿って早期完成を目指し事業を進める。

